

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202395
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ草薙
所在地 (電話番号)	静岡市清水区草薙1丁目23番16号 054-348-6350
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年8月3日

【情報提供票より】(平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人/ 非常勤 7 人/ 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥65,000	その他の経費(月額)	¥18,000	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ¥65,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	¥200	昼食	¥400
	夕食	¥400	おやつ	
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(平成21年7月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.11 歳	最低	53 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘病院・たんぼぼ診療所・草薙小児科内科医院・瀧齒医者
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本武尊を祭神とする草薙神社の門前町に当たる住宅地に立地するホームである。地域の理解とホームの明るさが相俟って利用者が地域の中で当たり前のように暮らしている。ホームの特色を考えて「人の縁」を思い浮かべる。日常に沢山ある縁を大切にしてい、その結果が利用者へのサービス向上に繋がることを見せていただけた。さまざまな方々と積極的に交流することで期せずして善意の連鎖に預かる話の数々は聞くにも心地よい。秋にはボランティア主催で利用者のボーリング大会も予定されている。「グループホームが特別でないことを地域が教えてくれる」この地において、その人らしく暮らし続けることを今後も支えていただきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題となった献立の定期的な見直しについて、囚らずも栄養士資格を有する職員が入職したことから、適切なカロリーとバランスの確認をしてもらい、低塩で野菜を多く用いた献立の食事が提供されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットごとに話し合せてまとめた。「項目の解釈に難しいところもあったが、介護者として考える機会となった」との職員の感想もあったが、自己評価の時点で今後取り組みたいことも多々挙げており評価を前向きに活かす姿勢がうかがわれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市役所、地域包括支援センター、自治会役員、民生委員、老人会役員、自治会体育役員、医療関係者、家族代表、近隣学校関係者等々に声を掛けて広い視野での意見を伺っている。災害時の対応や地域行事についての話し合いがもたれ地域とホーム双方に有益な会議の場となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者やリーダーは年2回の家族会や家族訪問時に積極的に意見を聞き出しており、家族の不安や不満に対しては丁寧な説明を以って状況を理解していただき、十分な納得を得ている。また職員間で話し合うべき事柄についてはよりよい方向を探って反映に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会への参加、災害時の誘導、さまざまなボランティア協力等々、地域の人々は当たり前のように近所として迎え入れており、ホームからも利用者が神社の祭りの手伝いや通学路の防犯燈の点灯等地域の一人として出来ることに関わっている。また近所の医院の休診日に駐車場をホームの来客用に利用させていただいたり鉢花をいただくなど隣人のよしみに大いに預っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス事業所として「その日その時その一瞬を、地域と共に、愛と笑顔と輝きで」をホームの理念に掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は入職の際に説明されており、ホーム内に掲示し職員への浸透を図っている。「利用者との関わりの中からいただく、その時その一瞬の感動をそのまま利用者にお返しできるように心がけている」経験豊かな職員の言葉である。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会への参加、災害時の誘導、さまざまなボランティア等、地域の人々は当たり前の近所として迎え入れており、管理者や職員から発せられる感謝の言葉が、地域とホームの関わりが強さをそのまま表している。ホームからも通学路の防犯灯の点灯等地域の一員として出来ることに関わっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、自己評価は各ユニットで話し合って記入している。自己評価の時点で今後取り組みたいことも多々挙がっており、評価を前向きに活かす姿勢がうかがわれる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2カ月に一度開催されている。災害時の利用者の避難場所について話し合ったり、有事の際にホームが高齢者や子供の避難場所になりうること、また24時間対応できることからAEDの設置場所に適するのでは等々、地域とホーム双方に有益な会議の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の防災セミナーやボランティア保険の説明会等に出席して、情報不足により利用者の生活に支障が出ないように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは発行時、金銭出納報告は毎月家族に送付している。年2回の家族会や運営推進会議の折、或いは家族訪問時を利用して利用者個々の健康状態や暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者やリーダーは家族訪問時に積極的に意見を聞きだしており、家族の不安や不満に対しては丁寧な説明を以って状況を理解していただき、十分な納得を得ている。また職員間で話し合うべき事柄についてはよりよい方向を探って反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は先ず、新しい職員に利用者個々を理解し適切な対応が取れるよう指導している。両ユニットの利用者について全職員が状況把握し、良い関係作りにより職員が代わることによる利用者へのダメージを出来るだけ抑えるよう図っている。	○	職員交代は利用者や家族にとって少なからず不安をもたらすため家族への新しい職員の紹介は遺漏なく実施されるようお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による入職時の研修や法人全体の研修が行われている。今年は系列グループホーム管理者の訪問指導もあり説得力のある経験談に職員は多くを学び取った。内部研修として薬やバイタル、介護計画情報等について全員の共通認識を高める為の勉強も始まっている。	○	ホームの質向上に、職員の持つ技術や能力の均質化が望まれる。全体のレベルアップのために内外の勉強会の一層の充実をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は周辺の系列グループホームと連絡を密にして各ホームの行事等に利用者と職員が参加交流している。予定されている利用者のボーリング大会は管理者の声かけで他ホームからも参加し、職員同士も触れ合いながら切磋琢磨の機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と協力して利用者の生活歴や習慣を把握してそれらが出来るだけ継続できるよう図っている。連れ添ったペットにも力を発揮してもらえるよう同伴も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は孫ほどの年齢の職員の世話を焼き、若い職員は自分に対する教えと受けて止めており、折しも話題になっていた「フジヤマのトビウオ」についても利用者の教えを受けていた。利用者の怒りには背景を理解することで気持ちを共有し支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々共に暮らしながら利用者の意向を汲み取るように努めており、会話が聞き取れない場合は筆談やジェスチャーにより意思の疎通を図っている。また利用者が入り込んでいる世界を否定することなく同じ状況の中にいる者として対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に本人や家族の意見は欠かせず、ケアカンファレンスには家族も参加している。加えて毎月の職員会議の意見をも取り入れて利用者本位の介護計画を作成している。家族アンケートには全員が「介護計画の説明を受け一緒に話し合っている」と回答している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングにより短期目標の遂行状況を確認し、介護計画作成時にはアセスメントを実施して新たな目で利用者の変化を捉えており、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買物の付き添い等柔軟に対応している。さまざまな実習生の受け入れにより社会貢献を果たし、またボランティアの協力が多彩であり、資源の活用により利用者の暮らしを豊かにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	迅速に対応してくれる協力医を確保しており、定期的な往診や訪問看護も受けている。受診後には居宅療養管理指導をもらい医師の指示を職員が共有し適切な健康管理に繋がるよう活用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関するマニュアルや同意書は用意されている。利用者本人、家族、職員の思いや現状を良く話し合い、医師や看護師の助言を受けながら今後の方針を決めている。重度化した利用者の介護も数回携わっているが、職員が細心の連携を持っての対応であった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には「・・・さん」の呼称を使用し、会話は利用者個々が馴染んだ言葉遣いで丁寧に対応している。記録は見守りが出来、且つ利用者の目に触れにくいリビングの一隅で行っており、書類は事務所の書棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で利用者が出来ることに関わって貰えるよう支援している。食後ベランダへ出て喫煙していた利用者は、暫らくすると乾いた洗濯物を抱えて室内に入ってきたが、利用者の表情と一連の動作は見ている者をもほっとさせるものであった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	収穫から楽しむじゃが芋やさつま芋、とうもろこし等を使った献立で、皮むきや野菜切り、食後の下膳は利用者も一緒に行っている。行事にはお弁当を取り寄せ、普段と異なる「ハレ」の気分も味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自分で入浴できる利用者もおり、利用者の身体状況により介助や見守りで対応している。見守りでは利用者から「もう出ます」と声を掛けられるまで気配をうかがいながら待って、ゆったりとした入浴を支援している。足浴や入浴後は足指の間まで乾燥させる配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵を描くのが得意な利用者の作品や写真が趣味の利用者の作品を壁にそれぞれコーナーを設け展示しており、利用者は来客を自分のコーナーへ案内している。将棋の対戦や職員による音楽療法を共に楽しんだり、畑の草取りをしたりと利用者一人ひとりの楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買物、行事としての七夕見学やドライブ等外出の機会を作っている。一人で電車を利用して外出する方もおり、利用者によってはペットボトルと名札を携行してもらい、個々の希望を尊重しつつも安全な外出に配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけることの弊害を理解し、職員は台所から玄関の様子を見守りつつ日中は開錠している。利用者の予期せぬ外出には、家族と連携してのGPSの利用や地域のタクシー会社無線による捜索協力を予めお願いして対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加しており、消防署の抜き打ち的な検査や指導も仰いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く使い、塩分を控えた食事が供されており、体重の増減にも注意しながら個々に相応しい栄養の確保を支援している。またさまざまな飲料を用意して十分な水分摂取を図っている。医師の指示がある場合は摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開放し自然の風が通り抜ける居間には一段高くなった畳コーナーがあり、利用者は腰掛けて洗濯物たみや絵を描くのに気軽に利用している。テラスのベンチは季節によって利用者が位置を変えていつでも最良の場所に置かれている。男子用のトイレが設けられているのも嬉しい配慮である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めの居室はベッドを始め箆笥やテレビ、書棚等の家具と共に趣味の将棋盤等が持ち込まれ、家族の写真や花を飾ってそれぞれの部屋作りがされている。読書好きな利用者が寝たまま消灯できるよう蛍光灯のひもをベッドまで伸ばしたことを楽しそうに話していた。また長年連れ添ったペットと暮らす利用者も見えた。		